

【緑地を楽しむ本】

『平和へ』

キャサリン・スコール/作 上遠恵子/訳 田沼武能/写真

岩崎書店



今年はどうな年だったか。ただろうと考えると、やはり「戦争」の二文字が私たちの心に重くのしかかるのではないのでしょうか。そんな人々の気持ちを受けとらねばならない。1995年に出版されたのち、しばらく絶版で入手できなかった『平和へ』が増刷されました。今こそ、多くの人に手に取ってほしい本ではないでしょうか。

平和って、なんだろう？ どうしたら見つけられるの？ そんな素朴な疑問に、友達との身近な事柄を例に挙げながら考えていきます。平和って、生きていくのに必要なものがちゃんとあること、友達や家族から愛されて

安心して生活できること・・・そんな当たり前のことが、戦争では奪われてしまうのだということが、今回の戦争ではっきりとわかりました。

もちろん、平和への道はそう簡単には見つかりません。でも、この本で言っているように「心の平和」だけは失いたくないと思いました。

各ページに添えられた世界の子どもたちの写真が、少し重くなった読者の心を明るくしてくれます。子どもたちの何気ない動作や表情、笑顔に、この大切な瞬間を守りたいという気持ちにさせられます。特に赤ちゃんがおっぱいを飲んでいる写真(この赤ちゃんはカメラマンの田沼さんの息子さんだそうです)・・・安心してお乳をあげられる時間こそが、平和な時なのですね。

(小川)